

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の助詞の一考察 : タイ語の前置詞と比較して
Author(s)	ワンナー チンウィガイ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1989 : 5 - 13
Issue Date	1990-03-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039258
Right	
Relation	



日本語の助詞の一考察—タイ語の前置詞と対照して—

ワンナー・チンウィガイ

はじめに

日本語を勉強する外国人が非常にむずかしいといっている点の一つは日本語の助詞の用法に関してである。

よく、「助詞は言わなくても話は通じる」と言う人が多いのだが、それはあくまでも話し言葉、それもそれほど堅苦しくない場合の会話の時だけのことであり、正式な場合や文を書く場合には通用しない。特に、知的な文章を書く場合には助詞の間違ひは致命的になることも少なくない。

そこで、今回の考察では、日本語の助詞の一部をあげてタイ語の前置詞と比較して、その相違点を明らかにしてみたい。

1. 「は」

1.) 「は」の用法

(1) 述べることの題目を示す。また、「...についていえば」のような意味をあ

例：雨はやみました。

幸福はお金では買えない。

あの人のことは私が一番よく知っている。

ごしみは新しいものを食べなければいけない。

さて次にあげる例は気をつけなければならない文章である。

ほくはコーヒーだ。(=コーヒーを飲むという意味を表す文章。)

コンピュータはHALだ。(=HALのコンピュータが一番いい。)

(2) ある部分を取り上げて強める。

例：競馬に行ってはお金の無駄遣いをしている。

入院中は、食っては寝るだけの生活だ。

バーベルを持ち上げては下ろし、持ち上げては下ろしの単純な練習だ。

(3) とくに二つの事ガらを対比するときを使う。

例：りんごはあるが、バナナはない。

酒は飲まないが、たばこは吸う。

東京にはあるが、大阪にはない。

北海道へは行ったが、九州へは行かなかつた。

対比される事ガらが示されているが、単に暗示されるだけの次のような場合もある。

バナナはありません。

この表現のうらには「バナナはない(が、ほかのくだものならある)」というような意味が暗示されている。次の暗示されている例もあげて

みる。

私はワインは飲みません。(ウイスキーなら飲むけれど。)
私は野球だけは苦手です。(ほかのスポーツは得意です
が。)

(4) . そのことだけはたしかだという気持ちをあらわす。

例：新宿から渋谷までタクシーに乗ったら、千円は払わなければならぬ。

あの本は一万円はするでしょう。

この荷物は何キロはある。

(5) . ある部分について否定する時に使う。

例：「ダナンさんは漢字が読めますか。」

「いいえ、私は漢字はほとんど読めません。」

「ここから淡路島が見えますよ。」

「いいえ、あれは淡路島ではありません。むこうの大きな島が淡路島です。」

2) 日本語の「は」のタイ語への翻訳

「は」をタイ語に翻訳しようとしても、はっきり翻訳できない。例
えば、「これは何ですか。」は、タイ語では 'nîi khwû arai' である。
これを一つ一つの部分に分けてみよう。これ→タイ語は nîi である。
何→タイ語は arai である。です→タイ語は khwû である。
また例えば、「雨はやみました。」は、タイ語では 'fôn yùd tòg'
であり、「入院中は、食っては寝るだけの生活だ。」は、タイ語では
'rawaang yùu roon phayaabaan dâi tē kin kâb nōon'
であり、「りんごはあるが、バナナはない。」は、タイ語では
'ēbpân mii tē klûai mâi mii' である。

このように「は」を翻訳することは難しい。すなわち、「は」とい
う助詞はタイ語には使われていないことがわかる。

2. 「が」

1) 「が」の用法

(1) . 主語を示す

例：春が来た。

川が流れる。

だれが当番ですか。

なお、疑問詞の中で、人称代名詞の「どなた・だれ・どいつ」、指
示代名詞の「どれ・どこ・どっち・どちら」、連体詞の「どの、どん
な」などは、

先生はどなたですか。

どなたが先生ですか。

中河原駅はどこですか。

どこが中河原駅ですか。

東はどちらですか。

どちらが東ですか。

あなたのはどのがとですか。
 どのがとがあなたのはとですか。

のように疑問詞の文中における位置がガえられる。しかし、ほかの疑問詞「いくら・いくつ」、「どう・いかが」などは転換はできない。

例：だんだんずしくなってきましたが、君の家のほうはいかがですか。

※主題を表す「は」と主語を表す「が」を比較してみると、「は」は判断や説明をあらわす文の主題に使われ、「が」はある現象をあらわす文の主語に使われる。

(2) . 欲望・可能・好き嫌いなどの対象を示す。

例：ああ、のどがかわいた。水が飲みたいなあ。
 小さい時台湾にいたので、中国語が少しわかる。
 関西の人は納豆が嫌いだ。

(3) . 複文のうち、条件を表す「～ば、～たら、～と、～なら、

～ても、～のに」などが、従属句の述語的部分にくる場合、その主語となるものは次のように「が」に示される。

例：あなたが買えば、私も買います。
 あなたが読んでしまったら、私に貸して下さい。
 あの人が来ると、いつもいやなことがあります。
 あなたが行くなら、私も行きましょう。
 あなたがさそっても、私は行きません。
 雨が降っているのに、外で遊んでいます。

(4) . ふくみをもたせむがえめに言う気持ちをあらわす。

例：明日は都合が悪いんですが...

「それじゃ、また明日。」
 「あ、それは私の傘なんですが。」

「が」の後は何も言わなくても、例えば、次のように
 明日は都合が悪いんですが、(映画を見に行けません。)
 あ、それは私の傘なんですが、(返してもらいませ
 んが。)

明らかに対手にわかる。

(5) . 逆接の関係を示す。

例：天気予報では雨が降ると言っていたのですが、結局降り
 ませんでした。

何時間も話し合ったが、結論は出なかった。

このように(4)、(5)は接続詞として使われており、(1)～

(3)の格助詞の用法方とは、区別して考えなければならない。

2) 日本語の「が」のタイ語への翻訳

「が」はタイ語に翻訳すれば、翻訳できる「が」もあるし、翻訳できない「が」もある。次の例を調べてみよう。

例えば、「私はタイ料理が食べたいです。」は、タイ語では

‘dichán yáag cā thaan aahāan thai’である。一つ一つの部分を分けてみると、

私→dichán タイ料理→aahāan thai 食べたいです→yáag

cā thaän のようになり、「は」と「が」は翻訳されていない。こういう文章ではタイ語に「は」と「が」にあたる言葉は必要でない。しかし、「彼は口は悪いが、気だてはよろしい。」はタイ語では 'khāo pāng rāai tēē caidii' である。この文章では「が」はタイ語では tēē にあたる。もし「が」を tēē に翻訳しなければ、意味は分かるけれども、はっきりとは理解しにくい。

3. 「を」

1) 「を」の用法

他動詞というのは、他にはたらきかけるうごきを示す動詞で、その時、はたらきかけを受ける、いわゆる目的語は「本を読む」のように「を」によって示される。

(1) . 動作・作用の対象を示す。

例：音楽を聞くのが趣味だ。

アントニオ猪木がモハメッド・アリの足をけった。

(2) . 経過する場所を示す。

例：スーパーマンは空を飛ぶ。

日曜日には公園を散歩します。

(3) . 出発・分離するところを示す。

例：渋谷駅で電車を降りて下さい。

十時に家を出れば、間に合います。

私のいところは東京大学を首席で出た秀才だ。

(4) . 動作・作用の方向を示す。

例：横を向いて下さい。

車の多い道では、横断歩道を渡って下さい。

2) タイ語との比較

「目的語十を十他動詞」というこの日本語の構文に対応するタイ語の構文は次の例のように「他動詞十目的語」である。

例：音楽を聞くのが趣味だ。

目的語十を十他動詞

タイ語では、

naan adirak khuu fan dontrii である。
他動詞十目的語

渋谷駅で 電車を降りて下さい。
目的語十を十他動詞

タイ語では、

karunaa lon rodjai thīi sathāanii shibuya
である 他動詞十目的語

このように、目的語を示す格助詞「を」はタイ語には必要がなく、英語などと同様に、目的語は語順によって示される。

4. 「に」

1) 「に」の用法

(1) 場所を示す。

例：有名なお寺はほとんど京都にある。
山の頂上に立つと景色がよく見える。

(2) 方向を示す。

例：今席、引越して千葉に移ることになりました。
ここ数年大学に入学する生徒の数は増え続けている。

(3) 時を示す

例：今日航空便で出しましたから、一週間以内にそちらに着くはず。
日本の新学期は四月に始まる。

(4) 使役や受け身の動作

例：私に行かせて下さい。
強盗に刺されました。

(5) 結果を示す。

例：大雨で、ずぶ濡れになった。

(6) 動作の目的を示す。

例：私は飛行場へ友達を送りに行きます。

2) 日本語の「に」のタイ語への翻訳

タイ語では thîi, nai, bon を場所を示すのに使う。改まった言い方をする時 thîi のかわりに nâ という語を使うことがある。

例：彼の家はスクムウィットにあります。

タイ語では、bâan khào yùu thîi sukhumwít である。

例：机の上に花瓶があります。

タイ語では、mii ceekan yùu bon tó である。

タイ語には運動の方向を表す時と時を表す時に、普通何も前置詞をおかない。

例：毎朝六時に起きます。

タイ語では、khào tuwn hòg moon thúg cháao である。

しかし、mûa を過去の時に使う。

例：三日前に手紙をもらいました。

タイ語では、dâirâb còdmăai mûa sâam wan kòtt である。

使役などの文(4)に対応するタイ語の文を作ると次のようになる。

例：私に行かせて下さい。

pròod hai phom pai

強盗に刺されました。

thùuk khamooy theen

このように、「に」はタイ語では hai, thùuk で翻訳することができる。ところが、文(5)の場合は「に」をタイ語に翻訳できない。

例：大雨で、ずぶ濡れになった。

fõn tòk nàk cwng piak mòt

動作の目的を示す場合の文章(6)をタイ語に訳すと、

phõm / dichán cà pai sòng phûan thîi sanăambin

あるいは phõm / dichán cà pai phûa sòng phûan thîi

sanāambin となるが、実際にはタイ人はこういう文章に phūa をあまり使っていない。

5. 「で」

1) 「で」の用法

(1) 手段・方法を示す。

例：アンデルセンの物語を絵本で読みました。

袋田のこんにゃくはしょうが醤油で食べるのが一番おいしい。

(2) 原因・理由を示す。

例：詩人リルケは女性のために手折ったバラのとげでけがをし、それがもとで死んだ。

四谷付近は事故で道路が混んでいます。

(3) 状態を示す

例：この魚は生で食べられます。

アメリカではトマトジュースは一リットル缶で売っている。

(4) 主体を間接的に示す。

例：体の不自由な人は国で保護しなくてはならない。

佐藤さんと私でテレビを直してしまいました。

(5) 時間・期間・年齢・金額・数量などを示す。

例：今日の仕事は五時で終わりにして、残りは明日またやりましょう。

日本の保険会社が四億円でゴッホの絵を買った。

この本は上下巻二冊で三千円だ。

(6) 場所を示す。

例：私の父はよくお風呂で歌を歌います。

地獄で仏に会ったような気分だ。

ふと見るとプロデューサーが部屋の隅でじっと我々を見つめていた。

2) 日本語の「で」のタイ語への翻訳

タイ語では、日本語の「で」にあたる手段・方法・道具・材料を示す前置詞に次のようなものが使われる。

(1) dūai ~ 道具や材料を表す。

例：タイ人はスプーンとフォークで食事します。

khon thai thaan khâac dūai chōon sōm

(2) dooi ~ 手段を表す。

例：船で川を渡ります。

khāam mēnāam dooi rwa.

6. 「へ」

1) 「へ」の用法

(1) 動作・作用の向けられる方向を示す。

例：私は若い頃、大学へはあまり行かないで毎日映画館に行

例：祖父がなくなつたことを父から教えられた。
彼の大胆な行動は運よく誰からも非難されなかつた。

(6) 時・順序を示す。(～してから)

例：私は毎朝、起きてから必ず冷たい水を一杯飲むことにしている。

この家を建ててからもう三年にもなる。

(7) ～から～までという表現を示す。

例：すみからすみまで掃除して下さい。

「に」と「から」はどいう場合におきかえられるか？

出発点としての相手は「に」と「から」によって表される。

例：先生から(に)おみやげをもらいました。

先生にし(から)紹介状をもらって、池田さんをたずねました。

私はビルマで河原崎先生に(から)教わりました。

このことは友達から(に)聞きました。

青年の家で日本人の友達から(に)習った歌をみんなで歌いました。

前ページの例では「に」と「から」はたがいにおきかえることができる。しかし、次の例の場合、

では、「卒業の時、学校からほうびをもらいました。」

では、「から」を「に」におきかえることができない。

「学校からほうびをもらう。」

「会社から給料をもらう。」

などは空間的な出発点というニュアンスをもつ表現となる。「先生にほうびをもらう。」「父にこづかいをもらう。」のように人格的な相手になると、「～に～もらう」「～から～もらう」もともにつかえる。結局、「に」は人格的な相手を出発点としたものには用いられるが、空間的な出発点の場合には用いられにくいということが出来る。

2) 日本語の「から」のタイ語への翻訳

タイ語の場合、日本語の「から」にあたる前置詞には、càag、

léεc などがある。

(1) 区間や期間の起点を表す。その他広く「から」の意味で使われる。

例：あなたはどこから来ましたか。

khun maa càag nai

友達から手紙をもらいました。

dairāb cōdmaai càag phūan

プラスチックは石油から作ります。

phlāsatiḡ tham càag nāmman

(2) 時間や期間を表すときに用いる。"tāntèe"

例：あしたから申し込みを受けつけます。

rāəm rāb samāḡ tāntèe phrūnnii

(3) 「～してから」「それから」"léεc、léεc kōo"

例：まっすぐ行ってから左へ曲がります。

tron pai léεc líao sāai

私は新聞を読んで、それから朝食を食べます。

phǎm / dichán àan nǎnsǔwphim léec thaan
 aaháan cháao
 テレビを見てから寝ます。
 duu thcorathād léecôw noon

おわりに

このレポートは、私がはじめて日本語で書いたものである。したがって、日本語による助詞の説明に不十分な箇所が見つけられるが、それをタイ語の助詞と比較するという新しい試みをしたという点で、少しはその方面の研究に役立てれば、と思う。そして、これからもこれを私の研究の一環としてさらに充実していきたいと思う。最後になりましたが、この研究を助言してくださった浮田三郎先生に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- (1) . 久野暉「日本文法研究」大修館書、1977
- (2) . 北川千里、鎌田修、井口厚夫「助詞」荒竹出版、1988
- (3) . 国際交流基金「文法I」凡人社、1978
- (4) . 宇戸清治、マリー・ベン・グソン「現代タイ語会話」
大学書林、1989
- (5) . 佐藤正文、ワッター・ウティ・チャムノン「実用タイ語会話」
泰日経済技術振興協会、1987